

第 19 回 木津川上流河川環境研究会 議事要旨

【開催概要】

開催日時： 平成 23 年 12 月 27 日（火） 15：00～17：15
開催場所： メルパルク京都 4 階・研修室 3【藤】

【出席者】

委員： 7 名
事務局： 木津川上流河川事務所 6 名
オブザーバー： 水資源機構関西支社 3 名、木津川ダム総合管理所 2 名

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事
 - (1) 木津川上流河川環境研究会 検討経緯確認
 - ・木津川上流河川環境研究会・ワーキングにおける検討経緯について
 - ・前回第 18 回研究会指摘対応の確認
 - (2) 堰・魚道 連続性再生検討
 - ・縦断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度検討方針
 - ・横断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度検討方針
 - (3) 河道内樹林管理検討
 - ・これまでの検討結果と本年度検討方針
 - (4) 河川環境目標検討
 - ・これまでの検討結果と本年度検討方針
 - (5) その他
 - ・今後の予定
4. 閉 会

【配付資料】

- ・議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ・資料 1： 木津川上流河川環境研究会・ワーキング 検討経緯
- ・資料 2： 第 18 回木津川上流河川環境研究会 指摘対応
- ・資料 3： 堰・魚道 縦断連続性再生検討 資料
- ・資料 4： 堰・魚道 横断連続性再生検討 資料
- ・資料 5： 河道内樹林管理検討 資料
- ・資料 6： 河川環境目標検討 資料
- ・資料 7： 木津川上流における河川環境の変遷 整理資料
- ・資料 8： 今後の予定

【審議内容】

(1) 木津川上流河川環境研究会 検討経緯確認

事務局より、前回研究会（第18回）における指摘の確認と、その対応方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 前回議事要旨について、「アユが遡上していないのであれば、何がバリアになっているか調査する必要がある」という記載は、『放流アユを含めて～』とするほうが、より正確である。
- 2) 前回議事要旨について、海産系アユの耳石分析以外の手法に関して「体長による判別等」という記載は、『体長・体型などの外部形態による判別』とするほうが、より正確である。

(2) 堰・魚道 連続性再生検討

縦断連続性再生検討：これまでの検討結果と本年度検討方針

事務局より、縦断連続性再生検討（魚道の簡易改良）に関して、これまでの検討成果、および本年度の調査結果と、検討方針（案）について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 調査時期の妥当性など、事前に検討しておくべき事項があったのではないかと。
- 2) 魚道改良は（関係者との調整やコストの問題等）難しい点があるため、できるだけ簡易な手法で試行したもので、速やかに望ましい効果は得られなかったが、課題が明らかになったことは、今後の検討のために有効である。
- 3) 魚道の簡易改良を行う際には、どの程度の流量まで耐えられるようにするのか、あらかじめ想定してから実施することが重要であり、今後の検討課題とすべきである。
- 4) 魚道の簡易改良は壊れることを前提とし、定期的なメンテナンスによって運用していくことも考えられる。そのような試験改良を進め、長期的なトータルコストを試算できれば、本格的な改築との費用対効果を比較することが可能になり、より効果的・効率的な魚道改良手法が明らかになると考えられる。
- 5) 高岩井堰の簡易改良項目のひとつとして、水路に「はめ石」のような構造を造成することが考えられる。
- 6) アユ遡上調査については、漁協への聞き取りや、全川的な遡上阻害要因の把握、および水系内の他河川の遡上状況や調査時期などについて、情報を収集・整理したうえで、検討すべきである。
- 7) 鴨川では簡易魚道の設置を行った結果、かなりのアユが遡上したと聞いている。周辺では検討が進んでいることから、木津川上流においても情報収集に努めながら、検討を進めていくべき。
- 8) 縦断連続性の再生には、情報が分散しているなど、個別事務所では対応の難しい課題もある。整備局内に連絡会を設置するなどし、さらに大きな枠組みの下で情報を十分に収集・整理するなどして取り組む必要がある。

横断連続性再生検討：これまでの検討結果と本年度検討方針

事務局より、横断連続性再生検討（上野遊水地）に関して、これまでの検討成果、および本年度の調査結果と、検討方針（案）について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 堤脚水路ごとの環境の違いを評価していく必要がある。
- 2) これまでの調査によって、遊水地全体が魚類にとってどのような環境であるか、おおよその概況は把握できた。
- 3) 今後は、水田の利用状況等に伴う水位変動に着目し、それらが生物の生息環境に与える影響を明らかにすることにより、「生物環境に配慮した水の使い方」の提言につながれば、有意義な成果となると思われる。

- 4) 上野遊水地周辺には多くのため池があり、これらが外来魚の繁殖地となっている可能性も考えられるため、これらの位置も整理すべき。

(3) 河道内樹林管理検討

事務局より、河道内樹林管理検討に関して、これまでの検討成果、および本年度の調査結果と、検討方針(案)について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 地上1m伐採はマダケで実施されているが、マダケで得られた成果をメダケに適用することは難しいと考えられる。(マダケに比べると、メダケは根が密であり、地上部も多数分枝する。)
本年度の試験地はマダケであったが、メダケについても検討していきたい。
- 2) 地上1mで伐採したまま放置することは危険であるため(切り口で怪我をする恐れがある)立ち入り禁止とするなど、安全管理を徹底してほしい。
- 3) メダケの3年連続伐採は、今年度調査結果をみると効果があったと考えられる。結果としては、除根、連続伐採、1回伐採の順に効果が高いというものだが、費用を踏まえるとどうなるか、評価については次回ワーキングで議論したい。
- 4) 3年連続伐採した個所について、根の状況も調べてはどうか。また、なぜこの手法が有効であったか明らかにできるとよい。
- 5) 成果としてまとまってきたが、マダケとメダケの種ごとの違いや、隔年で伐採した場合にどうなるか、もっと効果的な手法はないか、といった課題も残っている。
- 6) この研究により得られた成果は、今後の河川管理へ活用してほしい。

(4) 河川環境目標検討

事務局より、木津川上流における河川環境目標検討に関して、これまでの検討成果、および本年度の検討方針(案)について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 地域連携によって河川環境再生を進めていくという計画について、検討だけにしないよう、具体的に年次を区切った計画(短期的・長期的)として整理するのがよい。
- 2) 地域によって、住民参加による取り組みの状況は異なるため、地域ごとにアプローチも異なると思われる。
- 3) 河川には多様性が大切だということを前提に検討を進めてきたが、目標については地域のコンセンサスを得ることが重要である。
- 4) 河川環境の保全に関するニーズの高い地域が整理できたので、今後はこれまでの成果を踏まえ、地域に何が提供できるかを検討していくことが重要である。
- 5) 河川環境については、さまざま改善・再生の余地があるが、市民が何を期待しているか把握し、それに応じた提案ができるとうい。
- 6) 砂礫河原再生について、かつての砂州を再生することは土砂還元に通じる。河川に流れる土砂について考えることは、治水・環境のバランスについて地域の意識を高めることになると思われる。
- 7) 現在、堰・魚道、河道内樹林管理、水量・水質の各ワーキングに分かれているが、検討内容は相互に関係性を持っている。そのため、相互の情報交換や調整についても、検討項目のひとつとして加えてほしい。

以上